

2016年社長年頭挨拶（当社社内報掲載）

明けましておめでとうございます。
ご家族とともに、寿ぎの新年を迎えられたことと思います。

さて、昨年を振り返ってみますと、「穏やかならざる雰囲気の中、穏やかに仕事が進んだ一年」というのが私の個人的な印象です。

政治の世界では、日本は戦後七〇年という節目の年に当たり、八月には内閣総理大臣談話が出され、九月には平和安全法制関連二法が成立するという大きな変化があった年でした。また世界に目を転じれば、「イスラム国」の台頭、欧州への難民流入やテロの多発、南シナ海での中国による人口島埋め立てと米軍の哨戒活動などアジアの両端で紛争の火種が大きくなった一年でした。

また、日本経済では企業収益が拡大する一方で、中国経済の減速、米国の利上げ観測の高まりなど、懸念を膨らませながらも全体としては底堅さを見せた一年だったように感じます。

社会面では、企業の情けない不祥事が続くなど重苦しいことが多い中で、明るい話題はラグビーのブレイクでした。「ルーティン」が流行語となり、久しぶりに日本中が爽やかな興奮に包まれたように思います。

こうした中で、情報サービス産業にとっては比較的良い環境が続きました。多くの企業が競争力強化を目的にIT投資を進めた結果、情報サービス需要は堅調に推移し、当社もいろいろ課題を抱えつつも、業績を伸ばすことができました。これも社員の皆さんの真摯な努力の成果であると共に、お客様、パートナー会社の皆様など多くの方のご支援の賜物であり、改めて御礼を申し上げたいと思います。

さて、二〇一六年、新しい年を迎えました。

正月のおめでたい気分浸って、今年も穏やかに仕事ができる環境が続くことを願うものの、個人的にはあまり楽観していません。政治的にも多くのリスクを抱え、経済的にも先進国、新興国ともに明るさを期待できません。日本でも景気の牽引車が見当たらず、全体としての日本経済は良く横ばいくらいかもしれません。順調に回復してきた情報サービス産業も減速する可能性がありそうです。

こうした中で、NHSとして取り組まなければならないことは、第一に、これまで培ってきた設計・開発力に一段と磨きを掛けること、第二に、NHS独自のソリューションの競争力を鍛え直すこと、そして第三に、先進の技術トレンドに沿った新たなソリューションの種子を蒔き、育てていくことだと考えています。

設計・開発力は我々の生命線です。永年NHSは高い職業意識を持ち、高品質のシステムを提供することを通じて、お客様の信頼を獲得してきました。プライム案件も増加しています。さらに実力を高め、お客様の信頼に応えていきましょう。

NHS独自のソリューションには、昨年いろいろ課題がありました。近年の急速な成長に体制が追いつかなくなっているという側面もありますが、組織的な仕事の仕組みを点検・強化することで、次の成長フェーズを切り拓いていきましょう。

新たなソリューションの育成は、将来の成長の芽です。事業の成長のみならず、社員一人ひとりがわくわくするような喜びと、自らの成長を実感できる、人材育成の場を創っていききたいと思います。

今年も皆さんがご家族とともに健康に恵まれ、個人も会社も共に成長する。そんな年になるよう力を合わせていきましょう。

以上